

執筆者紹介

おうみ よしあき 本研究所以研究参与
近江 吉明
とくだ はんじ 本研究所以研究参与
徳田 賢二

〈編集後記〉

701号は2つの論文で構成されている。近江吉明「ベルシュタイン文庫の全体史的研究オート・ロワール県におけるテルミドール事件前後の動き」と徳田賢二「川崎市・都市システムを考える～都市政策と都市構造の統合～」である。

近江論文は、本学図書館所蔵の「ベルシュタイン文庫」を活用した全体史的研究の一環として、これまで注目されることの少なかった2人のサブ・リーダー的な議員の書簡や意見書などを検討する中で、1793～1794年のオート・ロワール県において、地方のテルールが社会革命を目指す世論を形成し、その中で成長した人々がテルミドール事件後も当県の政治体制を支えたことを明らかにしている。

徳田論文は、先進的な都市政策のモデルケースとして川崎市に着目し、都市政策と都市システムの関係性を具体的に整理する。川崎市の特徴—経済自立性を維持し続ける頑健性、人口流入と居住者の維持、文化学術や研究開発部門の集積、商業集積—を都市システムの諸理論を援用する形で整理し、それらを川崎市の都市政策に関連付けて論じて、諸政策を有機的に連携させて都市システム全体の機能を促進することの重要性を述べている。

ところで、現在の日本のコロナ感染状況に目を転じると、変異株のオミクロン株による急速な感染拡大が続き、新規感染者は1日当たり10万人を超えている。諸外国での先例を見れば「第6派」の発生も容易に想定できていたのに、3回目ワクチン接種の遅れ、検査体制の不備、医療体制のひっ迫が起きている。コロナ感染者が国内で発生してすでに3年目に入っているが、政府の対応は相変わらず後手を繰り返している。そんな中、オミクロン株の一種である別系統のコロナウィルスがデンマークやインドで増えているという。政府には教訓から学び抜本的な対策を期待したいところである。読者の皆様どうかご自愛ください。(Y.S.)

2021年11月20日発行

〒214-8580

神奈川県川崎市多摩区東三田2丁目1番1号 電話 (044)911-1089

専修大学社会科学研究所

The Institute for Social Science, Senshu University, Tokyo/Kawasaki, Japan

(発行者) 大矢根 淳

製作 株式会社グラフィカ・ウエマツ

新宿区下落合4-21-19 目白LKビル3F 電話 (03)6915-3835
